

北理研研究部 生物研究委員会 令和 5 年度 授業研究会（報告）

1. 日 時 令和 5 年 11 月 22 日（水）14:15-16:05
2. 会 場 帯広大谷高等学校
3. 授業者 小原 啓太 教諭（帯広大谷高等学校）
4. 授 業 2 年 普通科 生物基礎・生物 「模擬試験を活用し、解説書をつくる」
5. 時 程 13:45～ 受付開始（14:05 に授業会場へ移動）
14:15～15:05 授業参観
15:05～15:15 休憩・移動（質問事項等を付箋に記入→提出）
15:15～16:05 研究協議「公開授業を巡って」（グループごと）
 - (1) 質問事項等の付箋を提出
 - (2) 授業者より、付箋にて寄せられた内容について回答・補足
 - (3) 授業者の回答・補足うけ、追加の質問と共有
 - (4) 本授業の評価方法について授業者と各グループの意見交流
 - (5) 授業者からの話題提供（SCAN について）
16:05～ 諸連絡（冬フィールド研修・研究大会のお知らせ）・情報交換

6. 記 録 参加：17 名（授業者を含む）

(1) 授業に関して（報告者：綿谷みなも 教諭 北広島西高等学校）

本時では、授業内に実施した模擬試験の解説書を生徒自身で作成し、共有するという展開であった。

14:15～14:45 グループワーク

各グループの司会が進行を務め、本時までに作成した解説書（google ドキュメント）を用いて模擬試験の解説を生徒同士で行う。

14:45～15:00 グループ内で分かりやすかった解説を chromecast にて投影し、学級全体で共有する。

15:00～15:05 まとめ。模擬試験のもともとの解説を配布。作成した解説書と比較させる。模試を突破するためには、どの程度の勉強量が必要なのかを理解させる。

○解説書の説明が不得意な生徒がいたときに生徒同士で助け合う場面がみられた。→教員からの手助けは必要最低限であり、自分たちで理解しようという姿勢が見られた。

○生徒ごとに解説書に工夫が見られた。→

○まとめの場面で教員が解説書の作成を通して、生徒にどんな力を身につけてほしいかを開示していた。

→進路活動への向き合い方や課題への取り組み方を意識させていた。

(2) 研究協議に関して（報告者：島津輝 教諭 北海道士幌高等学校）

①授業のねらい（授業者より）

模試の解説を作ることにより、文章作成能力・情報の要否を見極める力・生物の興味関心を高めること等、5 年～10 年後社会人になってからも必要な資質・能力育成を意識した。本授業では、他の授業でもグループワークが実施されているため、個人での学びを軸にした。

②テーマ 1：付箋の内容と協議内容（グループ内協議を含む）

Q. 模範解答はいつ配布しているのか。⇒授業の最後に配布

Q. 問題を解かせる授業時間は。⇒問題解きと解説作製・発表で4～5時間実施。

1時間目：問題解き

2～3時間目：解説作製

4時間目：解説の確認（お試し発表＋修正）

5時間目：発表（本時）※本来はもう一時間必要であった。

Q. グループはどのように指定したのか。⇒教室の縦列で1グループ指定。縦列1人小問ごとに担当。

※横列の人は同じ問題・・・いつでも解説を確認・共有可

・聞いた内容をメモ取れるとよいのではないか。

Q. 生徒の解説の誤りをどのように見つけるのか⇒全員提出させたのち、フィードバックする予定である。【テーマ2につながる】

Q. 生徒が作成したプリント類は自由に作らせたものであった。

Q. 理科の中で、数字を扱う能力も大切ではないか。⇒定期考査の中での育成を目指している。

Q. 9月までの授業ではどのように指導しているか⇒プリントを使い通常授業を進めている。生物基礎の全体像を見せることを軸に、進めている。

Q. いきなり解説をつくるのは難しいのではないか。どのように普段指導しているのか⇒進学コースでは普段から授業者が、模試の模範解答とともに授業内容と一致している自作の解説書を配っている。普段から解説書に触れているため、慣れているためか、自然と取り組む。

・記述力UPも大切だが、文章と言葉で伝えるのは違う資質・能力なのではないか。

⇒今後、書くだけでなく、読ませる指導を心がけたい。ただし、記述力育成には時間がかかる、生物だけで養うのは難しい。

・添削の中で、養うのであれば限られた文字で説明するようにすると、教師の負担もへる。

（そもそもなぜ記述力が必要なのだろう。⇒文章力等が不足している見方と、将来生きる力だけでなく、大学で生物学を学ぶ上で必要である。⇒では、模試の学びの中で伸ばすべきなのか・・・）

・評価は難しいのでは。⇒授業者も悩んでいる。（現時点では主体性で評価する・・・）【テーマ2へ】

③テーマ2：もし本授業で評価するとしたら、どの観点でどのように評価するか

・どの観点でも評価できる。

・思考・判断・表現で評価するのであれば、大きくラインを決める必要があるのではないか。

（例：A 図やグラフを用い記述している B： 沿った内容を記述している。など）

・字数を指定しなければ、教師が評価するときに大変である。

・毎単元でやるのか、一回限りなのかで、評価の方法や見方が変わる。毎単元であれば、単元ごとに評価基準を伝えることで、1年を通じた評価を目指せる。一回限りであれば、できる限り評価しやすいような工夫の中で、3観点いずれかで評価することになる。

・横一列が同じ問題なのであれば、それを活用する？

・知識技能であれば、もう一度同じ問題を解かせるなど工夫ができる。